審議会等の会議結果報告

１．会　　議　　名	令和５年度(第 64 回)松阪市美術展覧会 第２回運営委員会審議会
２．開 催 日 時	令和６年１月 30 日（火）　午後１時 30 分～午後４時 00 分
３．開 催 場 所	松阪市役所５階特別会議室
４．出 席 者 氏 名	（委　員） ◎牧田研介 〇福井幸恵 北島 修 森嶌昌行 堀口昌宏 服部日出夫 杉本洋子 岩坂由華（◎委員長　〇副委員長） （事務局）別紙の通り
５．公開及び非公開	公　開
６．傍 聴 者 数	０人
７．担　　当	松阪市殿町 1340 番地１ 松阪市事務局産業文化部文化課 担当者 ： 波田 梶間 電 話 0598-53-4397 F A X 0598-22-0003 e-mail bun.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

（１）令和５年度（第 64 回）松阪市美術展覧会について

（２）令和６年度（第 65 回）松阪市美術展覧会の開催について

（３）その他

議事録

別紙

令和５年度（第 64 回）松阪市美術展覧会　第２回運営委員会議事録(要約)

開催日　令和６年１月 30 日（火）13 時 30 分から
会　場　松阪市役所本庁舎５階特別会議室
出席者　北島 修（日本画)、森嶌昌行（洋画)、堀口昌宏(彫塑)、服部日出夫（工芸)、
牧田研介（公募)、福井幸恵（公募)、杉本洋子（公募)、岩坂由華（公募）
産業文化部長：川村、文化課長：松葉
文化振興主幹：梶間、文化振興係：波田

１．開　会

２．部長あいさつ

３．議　　題

（１）第 64 回松阪市美術展覧会について
①松阪市美術展覧会　結果報告について

(事務局)以下報告
1 ページ
・今年度の美術展覧会の総出品数
絵画部門が 89 点、彫刻・工芸部門が 41 点、写真部門で 70 点、書道部門で 60 点の計 260 点昨年度から 6 点減
・来場者数
第 1 部が 1245 人、第 2 部が 1111 人の計 2356 人　昨年度からは 180 人減少
・審査会参加者 74 人　合評会参加者 121 人
・高校生以下の出品数
昨年と同数の 11 点の出品
2 ページ
・企業賞
第 60 回から新設した賞。5 社からご協賛あり。来年度以降も実施
・展覧会来場者内訳
第 1 部では 10 時～11 時と 13 時～15 時の間、第 2 部では 11 時～12 時と 14 時～15 時に時間帯で多く来場。
閉館 2 時間前の来場が少ない傾向
3 ページ
・来場者数の増減比較
第 1 部 1245 人、第 2 部 1111 人。ともに昨年度の数字を下回る結果。
・高校生以下の来場者数
第 1 部 51 人(昨年比 7 人増)、第 2 部 128 人(昨年比 67 人減)
・出品者の増減比較
書道部門のみ昨年比 7 件増加。その他の部門で減少(絵画 4 点、彫刻工芸 4 点、写真 5 点減)。
計 260 点(昨年比 6 点減)
約 78%が連続出品（令和 4 年度は 74%が連続出品)。
約 8%がかつての出品者が出品を再開して出品（昨年は 14%)。
新規の出品者は全体の約 13%に当たる 35 人(昨年は 12%33 人)。
新規出品が増えている中、連続しての出品や出品再開者が減少したことにより、全体数が減少した。
4 ページ
・出品者の年齢
10 代・20 代・50 代の出品が増加。特に 20 代の出品が 6 件増。それ以外の年代では減。
・高校生以下の出品

昨年同様 11 件
今年度も近隣高校へ訪問。出品数の増加にはつながらず。費用や行事等の制約がある中、出品は難しそう。
市展を知らない人が多い中、若年層の方に市展を PR する目的で、今後も継続した学校訪問を行っていく。
5 ページ～9 ページ
出品者アンケートと来場者のアンケートの記入欄の結果。多数意見を一部抜粋して報告。
・今年度より絵画部門のキャプションにそれぞれの描画材を表記。
多数のお褒めのコメントあり。批判的なコメントないため、翌年度以降も継続していく。
彫刻工芸部門での材料の表記希望や写真部門の撮影地の表記希望あり。今後の検討課題。
・彫塑台についてさびや古さが気になるという意見多数。
来年度は台へ彫塑台用の布用いて展示する。
・会場内での私語がうるさく気になったというご意見が多数。
「会場内ではお静かに」という表記を増やし、騒がしい方には注意をするよう係員へ指示を行う。
「少しくらいいいのではないか」という声もあり。
・係員の声が気になるという記述もあり。
会計年度任用職員への注意喚起も併せて行う。
10 ページから 17 ページ
アンケートの集計結果。参照案内のみ。

（運営委員からの意見）
1. 絵画のみにかかわらず、全体的に底上げが必要。中学生・高校生の出品をかなり増やす方向で検討していく余地があると思う。いろんな教室があると思うがどうしても高齢者が多いというのが現状。ずっと以前からの課題だと思うが、若い人を市展に興味を持ってもらうためにどう導いていくか。意欲的な作品参加・鑑賞につなげるにはどうすればよいかをこの場で少しでも有意義な方向性を検討できれば良い。アピールしていくことも大切であるが、日本全体として、美術関係に関与していくという意識が希薄な気がする。我々が若かった時代は、色々なものを見て自分なりに吸収していこうという意欲を持っていた人が多かった。今はそのような人が少ない気がする。その状況の中で、どのように底上げしてくかが、1 番の大きな問題と思う。美術関係の特定の人ではなく、だれでも参加できるというような筋道をつけるべきではないかと思う。
2. 出品者が少し減ったということだが、あまり気にしなくても良いのではないかと思う。前年に落選者が出た厳しい審査があったということもある程度影響しているのではないかと思う。自分はまあそういう（審査で落選者が出る）ことをやっても良いかとも思うが、一方で市民の展覧会なので出品者全員展示してあげたいという気持ちもあるので、矛盾しているところではある。今年、色々と絵画部門のキャプションの作り方の議論がされて、どんな画材で書かれたかというのを以前より少し詳しく書いてもらったことは、とてもよかったと思う。来場者の記述までまだ目を通せていないが、個人的に思うのが、彫刻・工芸部門は、特に彫工芸が一緒になっているので、材料や技法とかいろいろ違っているため、その表記があるとありがたいかなと思っている。
高校生の出品について、自分も高校教師をやっていたため、先生方が難しいといわれることはわかる。11 月に県全体の高校生文化祭というものがあり、そこを目指して一生懸命やっている。製作時間が限られている中、一点に絞ってやっているため、市展の時期はちょうど仕上げの時期。よっぽど余力や意欲のある子であれば出せると思うが、厳しい。ただ、見に来てもらうのは大いにありがたいことのため、鑑賞を呼びかけるために、今までの身近な活動を続けていけばよいのではないかと思う。
3. 前回の会議でも行ったが「高校生」という表記は「18 歳以下」にすべき。まつさか未来賞は素晴らしい賞。しかし、対象がほとんど 0 なのはなぜか。自分は範囲を 18 歳以下とするからと思っている。20 歳とか 23 歳とかまで広げたら出品者が増えるのではないか。もう少し後でもよいかも。現状では高校を卒業したら対象にならず、23 歳だと社会人 1 年目で時間もなくなかなか出しづらいと思う。少しして余裕が出てきたら出すかもしれない。そういう人を対象とする賞であれば、出品数も多少増えると思う。

4. パンフレットも素晴らしいと思った。会場もゆったりとした配置でよかった。アンケートの記述にもあったが、高校生の出品が多かったため、展示の際は、高校生以下の作品を展示する箇所を分けたり、U-18 のような表示をしたりしては明確にしてはどうかと思った。毎年議論に挙がる、若年層の出品について、皆さんの仰る通りの状態です。もう一つ下げて中学生以上ということも検討していっては良いのではないか。出品があるかわからないが、書道の場合、入選落選を決める際に中学生の作品が上がってきた際は、あまり落とすと来年度の出品数に響くというようなこともあって、展示スペースがあるのであれば、そういう作品もできるだけ入れていくという風に審査をしている。ただ、文化祭と同じではいけないので、そこら辺の線引きをどう引くかということが難しいかな。
5. 伊勢市展の審査員を頼まれて受けたが、技術工芸関連の部門について、いくつかはわからないが、松阪は出品が本当に多い。陶芸に限らず、タペストリーや布や織りや、当然漆器などある中で、賞を決めるというのはなかなか難しい。人を立ち止まらせ、美しいと思えるものであれば、素材が何であれ良いと私は思う。気になるのは、70・80 代の出品がすごく多いこと。多分陶芸サークルだと思うが。
自分が非常勤講師を務めている飯南高校のデザイン工芸で今年こそ市展に出品させたいと毎年毎年思うが、美術工芸の授業になると、学校行事でつぶれてしまう。中学生、高校生に出品してもらうためには、学校への案内を市からしてもらうようにお願いしたい。昨年度を見ても若い人の出品が増えていない。まあ、時代なんでしょうが、僕らの年代が一番多いというのもありますが、美術というものに対して、もっとみんなが何でも美術館へいくとか、伝統工芸を見るとか、そういう何か大きな変化がないと難しいのではないか。
6. 彫刻工芸に関して、絵画と同じように素材や技法などをキャプションに表記すると来場者の理解の手助けになる。そのような配慮が必要ではないか。今までの話を聞かせてもらうと、中学生・高校生は行事等で出品が難しいということであれば、その上の若い方である 20 代 30 代の方々が対象となる。その年代の人は松阪にも多分たくさんいるはずだが、今の６０代７０代の人たちと、その人たちとは美術に対する認識の差や違いがあり、若い方の市展に対する理解は浅いと思う。大作でなくても、何か作ったものがあれば出品してもらって、松阪市の文化を大きくしてもらいたい。若い人たちは民間がやっている「カルチャーストリート」のようなものに目が行っていると思うが、生活の中で美術をしているという意識を持って、賞を取るとかを考えずに、広い意味で地域に貢献するという心持ちで出品してもらえるようになれば良いのではないかと思う。
7. 自分たちの年代もなかなか少ない(40 代 50 代)。この年代になってくると、やることが今までやってきたことしかしないと思う。若い子みたいに、普段やっているものとは違うけど写真やってみようとか日本画をやってみようとか、なかなかチャレンジ精神が乏しくなってきている。別部門も出品可なのであれば、今出品されている方に、案内してみてはどうか。ちっちゃい作品でもよいということであれば、出品してみようという方も若干数かもしれないが増えるかもしれない。
8. 今年も素晴らしいと見せてもらった。若手の出品については後ほど項目があるため、そちらで発言する。
9. 高齢者の出品が多いのは仕方ないのではないかと思う。現役世代はなかなか美術に打ち込んでいる時間が持てない。リタイアしてから一生懸命頑張ろうとすると 60 代 70 代 80 代が増えるのはしょうがないと思う。事務局は、他の市町村でも 30 代 40 代など若い世代の出品は少ないのかどうか、意見交換の役に立つと思うので、また調べるように。
10. 作品に対して、本人がどういう意図をもって作成したのかということを見てもらう方に知らせるために、作者のコメントをキャプションなどに盛り込んではどうかと思う。作者の感性と見る人の感性がイコールになるのは難しいことだが、ただ単にこんな感じと見るだけでなく、コメントによって感性が結びつくところに喜びも出てくるのではないか。手間になり作者も運営もえらいとは思うし、読まない人は読まない。作者によってはつけたくない方もみえるだろうから、つけたい人は出品票にちょっと書くようにすれば。
11. (10.に対して)コメントを付けるのに大賛成。大きな展覧会であれば難しいかもしれないが、市展くらいの規模であれば本人の意見があればもっとわかりやいかなと思う。
12. (10.11 に対して)すべてにつけるというのは難しいと思うので、奨励賞以上の入賞作品につけてはどうか。
13. 書道について、何が書いてあるかわからないという意見がアンケートにあった。文学ではないので、視覚的に見てもらえばそれでよいとは思うのだが、原文で書くのが書道界の通例ではあるが書き下し文を書くようにすればもう少しわかりやすくなるのではないかと思う。(10.11.12.に対して)奨励賞以上という区切りがあれば、可能だと思う。

②夏休みこどもワークショップ結果報告について

(事務局)以下報告
18 ページ～20 ページ

・夏休みこどもワークショップは、次代の松阪市を担う子どもたちに、美術等へ関心を持つ機会を提供し、制作した作品を展示することで発表する喜びを体験することを目的として平成 27 年度より開催。
・今年度は市内の小学生を対象として 8 月 5 日(土)、「水墨画体験教室」を実施。
・講師は松阪水墨画交流会の 5 名の方(石川さん、坂井さん、中島さん、向井さん、吉岡さん)
・2 グループに分かれ、説明を受けたのち、それぞれの講師のアドバイスのもと、各自で墨の濃淡の調整練習を行い、A3 サイズの紙に選んだお手本をみて描画。
・製作した作品は市展第 1 部の会期に合わせて文化財センターはにわ館ロビーにて展示。
・募集方法は市内の小学校へチラシを配布。オンライン、FAX または郵送で受付。
・定員 20 人のところ 101 人の応募あり(申込内訳：オンライン 87、FAX12、はがき 2)。20 名を無作為選出。
・令和 6 年度の夏休みこどもワークショップについては彫刻工芸部門で「段ボールアート体験」の開催を予定。

(運営委員からの意見)

1. 応募数に対し、当選人数が少なく、さらに参加者が減少しているのはいただけない。参加者が減少している理由は？参加者をもっと何とか増やせないのか。
2. (1.に対して)20 人募集しますよというところに 101 名の募集が集中したということでしょう。応募のニーズに対して少ないことは気になるが、これは指導される先生のご都合というか、たくさん見れないというような話でこれくらいの数になっている。
3. ワークショップ、結構厳しい倍率ですよね。昨年もこれだけしか参加できないのかと思った。丁寧に指導してもらうということと、場所と子供たちの作業スペースを考えるとそうかもしれないが、倍率が高い。
4. (3.に対して)今回すごい。(参加者数を指して)4 年生が 2 名というのはどういうことか。
5. (4.に対して)体調不良では。
6. 補充も一度落選の通知を出しているから難しいね。
7. (5.6.に対して)そういう理由であれば仕方ない。けどもう少し増やしてもらっても良いのではないか。
8. 参加人数については、ワークショップの内容によって、スペース的な問題と指導者の数の関係があると思う。会場にいたが、参加した子はゆったりと座れて、指導も手もちゃんと回っていて、目も行き届いていて手厚かった。子供らにとって水墨画は初めてのことで、墨を扱っている学年が 3 年生からということで募集の配置もこのようになっておるよう。服を汚してしまう子であったり、作品を何枚も書くので並べるところであったりその年の内容によってやっぱり変わってくるかな。101 に対して 20 は数字だけ見るとかわいそうになるな。指導者がもっといたら可能かも。募集人数も明記してある。抽選は誰が？今年は段ボールアートであれば、なおさらまた場所をとるね。
9. これはワークショップが人気ということだけで、次年度にどうしたらよいかは今日は別に良いのではないか。20 人募集したら 101 人来て倍率が増えたということ。ありがたいことであり、次年度違うワークショップになったらもう少しバックを広げようかなと考える程度で良いのではないか。
10. 101 人の募集してくれたエネルギーは大切にしたい。

(事務局)

1. (運営委員からの意見 8.に対して)抽選は Excel の関数を使って無作為抽出による。

（２） 第 65 回松阪市美術展覧会について

① 開催日程および会場等について

(事務局)以下報告
22 ページ

・令和 6 年度（第 65 回）松阪市美術展覧会の開催案について
会場：松阪市の文化財センター
部門：第 1 部・第 2 部の 2 部門制
第 1 部　絵画部門と彫刻・工芸部門
第 2 部　写真部門と書道部門
日程：文化財センターの会場の予約等につき、会場はすでに予約済み。
第 1 部　 9 月 20・21 日【搬入】、9 月 25 日【審査】、9 月 29 日～10 月 6 日【会期】
10 月 6 日【合評会】、10 月 6・7 日【搬出】
第 2 部　10 月 11・12 日【搬入】、10 月 16 日【審査】、10 月 20 日～10 月 27 日【会期】
10 月 26 日【表彰式】、10 月 27 日【合評会】、10 月 27・28 日【搬出】
いずれも会期については 8 日間を見込んでいる。

② 開催要項について

(事務局)以下報告
23 ページ～25 ページ
・開催要項等の案について
現状はあくまで開催案、様々な意見をお出しいただいたうえで、また来年度に向けての運営委員会等で最終決定。作品の公募要項：創作した未発表のもの、各自部門別で一人一点、
出品料は 500 円、ただし平成 18 年 4 月 2 日以降お生まれの方について出品料無料
作品規定：出品される方に対して少しでも分かりやすくなるように表現したい。
褒賞：こちらも出品者に伝わりやすいように表現したい。ご意見があればお願いしたい。

（運営委員からの意見）
なし

③出品者・来場者減少への対策について
議事進行の都合上、（３）その他で取り扱い

④運営委員および審査委員について
〇運営委員の任期について

（事務局）
運営委員について
松阪市美術展覧会運営委員会設置要綱に基づき、任期は委嘱のあった当該年度としている。
ただし再任は妨げない。
【専門委員】任期は 1 年とし、令和 5 年度は別途選出する。
【公募委員】原則任期は 1 年だが、専門委員の先生が 1 年交代をされることもあり、再任をお願いできる方には再任をお願いしたい。
→公募委員の皆様は令和 5 年度も再任していただくこととなった。
（運営委員からの意見）
なし

〇審査委員の選出

（事務局）
審査委員について

松阪市美術展覧会審査委員設置要綱に基づき、今年度の運営委員(専門委員)に候補者の選出を行っていただいている。選出していただいた審査委員は松阪市美術展覧会運営委員会の選任に基づくものとして取り扱う。専門委員の先生には審査委員選出依頼用紙を配布。2月19日（月）までにご推薦をお願いしたい。

(運営委員からの意見)

1.審査委員選出にあたり、水墨画の先生となると少ない。水墨画に精通しているとはどう判断すればよいか。
2.今年度の審査員はわかるが、過去の審査員が分かるとありがたい。何かデータはないか。
3.写真部門の審査員が3人いるが、市内の先生を2人でもよいのか。市内に6名ほどいるが、市内の者を1人ずつだと5年に1度しか回ってこない。そうなると、社会情勢が変わってくると写真も変わってくる。5年もたつとずいぶん変わる。もう少しサイクルを早くしたほうが審査の判断がしやすくなると思う。市内2人でやって、どちらかが部門長を担い、次の年に副の人が部門長をやれば申し送りもできて一番良いと思うが。
4.審査員も次の世代の若い人たちがもう少しにぎわっていけるようになっても良いのかと思うが、それは、各部門で推薦・人選する方の考えによると思うが、実際あまりそういう世代がないという場合もあるが。そうすると再任も考えていかないといけないかな。先ほどの(事務局からに返答3.について)続けてやってはいけないということについては、個人的には賛成。
5.(4.に対して)歴任しないとなっているのは、不平不満の声が出るからだというのは自分も感じているから納得。だから、本当は1年おきの方が良いのだと思う。
6.選任にあたり、自分は男性ばかりでなく、女性も入れたいと思っている。
7.皆さんが1年交代でよいということであれば、私も異議無し。

(事務局)

1.(運営委員からの意見 1.に対して)水墨画を専門にされていなくても、水墨画についてご理解があり、審査を問題なくしていただける方であればどなたでも可。
2.抽出してお渡しできる。後ほど準備してお渡しする。
3.(運営委員からの意見3.に対して)審査委員設置要綱に審査員の任期は、委嘱があった当該年度に限るものであり、引き続く年度の委嘱は行わないということが明記されておりますので、連続しての運用はできないことになっている。こちらの要項の内容変更ができるため、皆さんでご検討、ご議論いただきたい。
4.(運営委員からの意見 3.4.5.に対して)長年同じ審査委員が続いてくことを避けるための規定と思われるが、引継ぎを確実に行えるように、再任は2年を限度とするといった制限を設けることは可能。どういった規定が望ましいかご意見をいただければ。

（３）その他

(運営委員からの意見)

①写真部門作品の撮影について

1.写真部門作品の撮影について、要項にも撮影可としているから問題ではないが、デジタル時代になり、展覧会で撮影した作品を加工して自分の作品として出品する盗作が世界的に問題になっている。ほかの部門でそれは難しいと思うが、写真部門はできてしまう。決まりの厳しい都会ではなく、地方の展覧会へ撮りにきて盗作するケースも。問題になってからでは遅いので、写真部門だけでも撮影を禁止にしてはどうか。全国の写真展ではみんな撮影禁止となっている。
2.絵画は逆に開放されている。昔は厳しかったが。作者が撮ってほしくない場合は撮影禁止マークを付ける。それ以外は撮影可。写真部門もそのようにすればどうか。
3.(2.に対して)それは良いと思う。出品者が撮影OKならよいが、だめならそれくらいの表示はしてほしい。
4.非常に重要な問題だが、ここでは結論が出ないため、事務局で世の中の状況を調べていただいて、撮影禁止ということにもなるかもしれないが、それは次回の運営委員会での議論でどうか。どのような状況か把握した上で、撮影可となったのか。

5.(事務局からの回答 1.を受けて)アンケート結果に写真撮影できたのが良かったという意見もある。写真部門だけ復活するということは可能か。
6.盗作の件について、次年度の運営員会で再検討すること。

②未来賞の対象となる年齢を引き上げることについて

7.(議題３(1)で挙がった)未来賞の対象年齢を上げる件について、自分は 23 歳くらいにまで上げても良いと思うが。折角の賞なのに、受賞者 0 というのはもったいない。
8.(7.に対して)何歳でもよいが、なぜその年齢で線引きしたかという根拠が難しい。
9.(7.8.に対して)年齢ではなく、初出品から 3 年や 10 年未満の方を対象にするのはどうか。はじめて出品して入賞すれば、また頑張ろうと励みになる。美術関係の世界では、やり始める年齢が、ある程度年齢が来た人も多い。そういう方を育てるのも一つ。
10.自己申告制にすればよい。自分が何を書いたかで憶えているのでは？5 年だと怪しいが、3 年くらいなら憶えているのではないか。審査委員も運営委員も見ていると思う。
11.(10.に対して)審査委員も運営委員も連続して当たらなければ分からなくなる。
12.(事務局からの回答 5.に対して)選ぶ際に出品数少数であることが問題。現状 18 歳未満という定義がある中でたくさん出品があるのであれば意義もあるが、0 に近いところで 1 票を選ぶのもバランスが悪い気がする。
13.来年度の運営委員会にて、今日の意見をもとに議論すること。

③若年層の出品増加のための取り組みについて

14.市内高校の写真部へ、われわれ写真に精通しているものがアドバイスに行けるチャンスを作ってもらえば、宣伝効果があると思う。
15.継続して、各学校へ出品依頼に行ってもらうことが良いのではないか。
16.出品の前に見に来てもらえるように広めては？
17.各学校を回る際に、運営委員もついていけばより効果があるのではないか。
18.小学校や中学校にも「見に来て」もらえるように PR をしてはどうか。いきなり「出して」ではなく、見に来るうちに、自分でも出せそうと思ってもらえればよい。今の広報活動を継続していくことも大切。
19.instagram をもっと活用しては？若い子は SNS がすごい。美術展をやっていますというだけでなく、審査の様子や、去年こんな作品がありましたとか、未来賞の宣伝をすれば、出してみようかなという子も出るのでは。本当は会場に来てもらえるのが 1 番良いが、若い子に市展を知ってもらうことを目的とするのであれば、良いのではないかと思う。
20.X や instagram について、メンションをもっと増やせばよいと思う。興味があるワードがあると今の子は検索する。別のことを調べるために検索をかけたときに、市展の記事が引っかかるようにしていくと色々な人の目に触れると思う。また、SNS ですごくヒットさせる方法として、その技法や工程を掲載する手法がある。現状目録を手に入れるか、会場に行かないと作品が見れない。「市展やっています」というのみではなく、「まつさか未来賞」の宣伝や、こんな作品があるよとか見せていけばよいと思う。
21.目録を教育委員会へ言って、各学校に配るのはどうか。話題になると思うし、興味のある人も増えていくのではないか。
22.基本的に認知度を上げていくのが総意かと。結論は出ないが、来年度の運営委員会にて提案するように。
23.(事務局からに回答 7.に対して)今の時代のものを使ってアピールをすれば色々な面で変わってくるかもしれない。
24.(事務局からに回答 7.に対して)非常に興味深いが、実現するためのハードルがあるのではないか。
25.(事務局からに回答 9.に対して)停滞していると思うので、先進的な感じで是非やってもらいたい。応募が少ないのはもったいないから。

（事務局）

①写真部門作品の撮影について

1.（運営委員の意見4.に対して）昨年から個人利用に限って撮影可。最近は写真撮影を許可する方向にあるから、松阪市展でも撮影可にしてはどうかという方向性で、個人利用に限ってという議論となったように思う。写真部門の特性のような個別の議論はまだされていなかったかと。

2.（運営委員からの意見5.に対して）可能です。

②未来賞の対象となる年齢を引き上げることについて

3.（運営員からの意見9.に対して）データベースとしてはあるが、複雑な抽出が必要となることや、前の出品から年月がとても経っていて10年ぶり2回目の出品の方や、途中で名前が変わる方もみえる。新人賞としては岡田文化財団賞があるため、そこと明確な住み分けは必要かと思う。

4.（運営委員からの意見 10.に対して）出品票での判断も怪しい部分がある（毎年年齢が変わらないもしくは若くなる方もみえる）。賞が絡んでくるため、抜けや漏れなど不確定要素がある内容は避けるべき。ルールとしてきちっと確実に押さえておかないといけない部分と考える。

5.若い世代から美術の感性を育むためにチャレンジしてもらいたいという思いがあって創設された賞のため、初心者という枠に広げると、もともとの賞の意義自体が変わってしまう。

6.（運営委員からの意見12.に対して）それでは、一旦この賞を廃止して、もう一つ新しい賞を設ける議論をしていくのはいかがか。

③若年層の出品増加のための取り組みについて

7.デジタルフォト展やイラスト・デジタルアートをデータで募集し、それを会期に合わせて会場で、特別展的な催しとして、展示してはどうかと考えている。それを見に来た人が、本格的な写真や油絵・日本画をみて、素晴らしいなと感じてもらえる機会を作ってはどうか。部門として設けてしまうと、またハードルが高くなってしまうため、気軽に投稿するような感覚で出してもらえるようにしたい。頂いた作品をスライドショーみたいな形で、モニターを用いた展示ブースをギャラリー内に設けてはどうか。

8.（運営委員からの意見 23.に対して）市の行政チャンネル・youtube も持っているため、審査の様子や受賞者の作品を載せていくことも可能かと思う。

9.（運営委員からの意見24.に対して）ハードルとしては、機材の調達と、応募について。機材もモニターはあり、応募についても、デジタルで HP 上にアップロードをしていただく形がとれるため、ハードルのクリアは可能かと。

４．閉　　会

（事務局）

今年度も運営委員の皆様には、たくさんのご協議をお願いした。事務局の市展担当経験者が異動した中で、例年通り無事に市展を開催することができたのは、皆様のお力添えあってのこと。ありがとうございました。